

The aim and the framework of this special issue

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Otani, Ikue, OKADA, Fumio, Yl, Yong-hee メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00059506

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



螺鈿文様に使用された貝の種類と文様加工に使用した道具等に対しては、詳細な研究が行われる必要があると考える。

訳注：

訳 1) 懸子とは、ある箱の身の縁にかけて、その中にぴったりとはまるように作られた箱。

訳 2) 重要文化財指定名称は「菊花文螺鈿経箱」。資料はの国立文化財機構の「e- 国寶」で公開されており、細部を拡大して確認することが可能である。[文化財オンライン (e- 国寶へのリンクあり)]: <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/131067/2>

訳 3) 原文ではキャプションが図 90 と同じく「2 本を撚り合わせた金銅線の…」となっているが、誤りであるため訂正した。また、図も図 90 と重複しているため、著者確認の上差し替えている。

訳 4) 論文名は誤植により「雑」が抜けている。名称は本文文頭で示されているように「나전묘금포류잡수수금문향상」であり、訂正した。

註（参考・引用文献）：

곽대웅 1984 『고려나전칠기 연구』 미진사. [『高麗螺鈿漆器研究』 미진사]

李容喜이용희 1994 「통일신라시대 칠기의 재질과 기법」 『한·일보존과학 공동연구 자료집』. [「統一新羅時代漆器の材質と技法」 『韓・日保存科学共同研究資料集』]

李容喜이용희 1996 「조선시대 나전칠기수리」 『보존과학학회지』 5. [「朝鮮時代螺鈿漆器の修理」 『保存科学学会誌』 5]

李容喜이용희・金庚洙김경수・俞惠仙유혜선 2003 「나랑칠기의 칠기법 조사 (1)」 『박물관보존과학』 4, 국립

중앙박물관. [「樂浪漆器の漆技法調査 (1)」 『博物館保存科学』 4, 国立中央博物館]

윤원선 2004 『불화의 금니・금박표현기법 연구』 용인대학교 예술대학 석사학위 논문. [『仏画の金泥・金箔表現技法の研究』 龍仁大学校芸術大学修士論文]

곽대웅・황지현 2006 「한국의 나전칠기」 『나전칠기: 천년을 이어온 빛』 특별전 전시도록, 국립중앙박물관. [「韓國の螺鈿漆器」 『螺鈿漆器: 千年を受け継いだ光』 特別展展示図録, 国立中央博物館]

李容喜이용희・金庚洙김경수・俞惠仙유혜선 2009 「다호리 출토 칠기유물의 칠기법 특징 연구」 『고고학지』 특집호, 국립중앙박물관. [「茶戸里出土漆器遺物の漆技法特徴の研究」 『考古学誌』 特集号, 国立中央博物館]

李容喜이용희・서정호 2010 「고려시대 이전에 제작된 출토 고대칠기의 칠 기법 연구」 『문화사학회지』 33. [「高麗時代以前に製作された出土古代漆器の漆技法研究」 『文化史学会誌』 33]

박정혜・李容喜이용희 2013 「고려시대 칠기에 나타난 묘금기법 연구」 『박물관보존과학』 14, 국립중앙박물관. [「高麗時代漆器に表れた描金技法研究」 『博物館保存科学』 14, 国立中央博物館]

原載：

이용희 2014 『高麗時代蒲柳雜樹水禽文螺鈿描金香の現況、材質 및 製作技法』 (訳4 『東垣学術論文集』 第 15 輯, 国立中央博物館・韓國考古美術研究所: 208-236.

公開先（韓国国立中央博物館 HP）：

https://www.museum.go.kr/site/main/archive/periodical/archive_6247

本号の企画と構成について

大谷育恵・岡田文男・李容喜

I. 本号の企画について

大谷育恵と岡田文男は、公益財団法人住友財団の 2019 年度「海外の文化財維持・修復事業助成」を受給し、2020 年 4 月よりモンゴル国の匈奴墓で出土した漢代の有銘漆器 2 点の調査研究と修復を実施する予定である。漢代漆器に対する顕微鏡観察の

既存報告としては、東京大学が所蔵する樂浪漆器は報告が出ており [岡田 1995]、また中国の漢墓出土資料に対する実施例も報告書 [岡田 2009] 中で発表されている。匈奴墓出土の資料についても、筆者らは 2018 年度にツァラム 7 号墳の資料に対して調査を実施しており [Okada 2019; Otani 2019]、今後住友助成事業を通じてさらなる調査事例の積み重ねができるものと考えている。

一方で、著者らが先行研究について情報共有をする中で気になったのが韓半島の研究状況である。韓国においては戦前の発掘調査で出土した樂浪漆器

が国立中央博物館に所蔵されており、漢代漆器という関連性から楽浪漆器の研究状況が気になったのは勿論のことである。それに加えて、かつて岡田が「東アジアにおける漆工技術の系統的研究」(科研費 26350381, 基盤研究 (C), 2014~2017 年度) で解明を目指していたように、東アジア間の漆芸技術の伝播、中でも日本にとっては大陸からの技術の伝播とその時期を考える上で、韓半島は非常に重要な地域である。韓国における漆芸技法調査の発展とその歴史については李容喜が述べているが [李容喜ほか: 本号 p.23]、研究開始の段階から岡田文男を含む日本人研究者らの関与があり、両国研究者間の研究交流は密であった。ただし問題となるのは言語上の点で、最終成果物としての報告書あるいは論考はハングルで刊行されるため、日本語で執筆した著者本人にとっても保存科学を専門とする日本人研究者にとっても情報共有がしづらいという点がある。し

たがって、本号では韓半島で出土した漆製品の漆塗膜に関する分析報告を一括して訳出し、今後の研究で活用できる基礎資料の作成を目指した。本号の企画と構成の大筋は、李容喜、岡田、大谷の三者の相談によって決定していった。企画者として、本号が今後の東アジア漆芸技術の比較研究が進展してゆくための一助となることを願っている。

Ⅱ. 本号の構成について

漆製品に対しては様々な調査研究があるが、本号では漆塗膜の断面観察を掲載している論考という基準で訳出する対象を選んだ。冒頭の論文は初期鉄器時代～統一新羅期、そして日本の北部九州についても言及した最も総合的な内容のものであるために冒頭論文として配置し、以降高麗時代までの論考で構成した。茶戸里遺跡あるいは楽浪漢墓出土資料の報告については、論文間で内容的に重複する部分もあるが、これらすべてを訳出対象に選んだのは、今後漢代漆器に対して研究を行う本研究班の都合によるものである。基本的には発掘出土資料に対する分析事例を選んだが、最終の蒲柳雜樹水禽文螺鈿描金香箱については近年日韓間の研究交流で対象となった資料であるため候補とした。

漆塗膜の顕微鏡観察の結果を報告しながら本



朝鮮民主主義人民共和国 平壤

1. 楽浪古墳 [6,15,28,35,164]
- ・貞梧洞
- ・石巖里 9 号墳
- ・王盱墓 (石巖里 205 号墳)
- ・彩篋塚 (南井里 116 号墳)

* [主な言及箇所のパージ数]



図 1 漆塗膜の分析が実施されている
本特集号で言及した遺跡

大韓民国

京畿道

2. 河南 二聖山城 [190]

ソウル特別市

3. 石村洞古墳群 [9]

江原道

4. 原州 法泉里古墳 [9,130]

忠清南道

5. 牙山 葛梅里遺跡 [190]

6. 公州 水村里遺跡 [190]

7. 公州 武寧王陵 [112,126]

8. 公州 陵山里遺跡 [11,122]

9. 公州 佳塔里遺跡 [122]

10. 公州 双北里遺跡 [122]

大田広域市

11. 月坪山城 [11,128]

全羅北道

12. 淳昌 農所古墳 [165]

光州広域市

13. 光州 新昌洞遺跡 [6,190]

慶尚北道

14. 慶山 林堂遺跡 [42,58]

15. 慶州 舍羅里古墳 [6]

16. 慶州 芳内里古墳 [9,130]

17. 慶州 壺杆塚 [9,165]

18. 慶州 金冠塚 [159]

19. 慶州 皇南大塚 [144]

20. 慶州 雁鴨池遺跡 [11,130]

蔚山広域市

21. 下垈遺跡 [69]

慶尚南道

22. 金海 大成洞古墳群

[9,71,81,92,98]

23. 昌原 茶戸里遺跡 [1,23]

24. 咸安 末伊山古墳群

[100,103,109]

号において訳出掲載できなかった論考も多く、それらには以下がある。参考のために列記するので、関心のある方は確認していただきたい。(『博物館保存科学』の公開先については一括とし、列記末尾に付記している)

■新昌洞遺跡

金洙喆^{キム スチョル}・李容喜^{イ ヨンヒ} 2004 「광주 신창동 출토 칠기칼집 보존처리」『박물관보존과학』5: 37-41. [「光州新昌洞出土漆劍鞘の保存処理」『博物館保存科学』5]

金洙喆^{キム スチョル}・朴永萬^{パク ヨンマン} 2006 「광주 신창동 저습지 유적 목재 및 칠기의 보존」『박물관보존과학』7: 43-51. [「光州新昌洞低湿地遺跡の木材および漆器の保存」『博物館保存科学』7]

金洙喆^{キム スチョル}・李光熙^{イ グワンヒ} 2008 「광주 신창동 유적 출토 목제품의 수종 및 칠 분석」『박물관보존과학』9: 95-104. [「光州新昌堂遺跡出土木製品の樹種および漆分析」『博物館保存科学』9]

■林堂遺跡

金洙喆^{キム スチョル}・李容喜^{イ ヨンヒ}・李孝先^{イ ヒョソン} 2006 「경산 임당유적 목제품 보존」『박물관보존과학』7: 53-62. [「慶山林堂遺跡木製品の保存」『博物館保存科学』7]

■葛梅里遺跡

藤根久・佐々木由香 2007 「木製品の塗膜分析」『牙山葛梅里(Ⅲ地域)遺跡—分析 및 考察—』(高麗大学校考古環境研究所研究叢書 26), 高麗大学校考古環境研究所・(주) 중앙하우징: 29-32(ハングル), 37-39(日本語). [「牙山葛梅里(Ⅲ地域)遺跡—分析ならびに考察—」]

<http://excavation.co.kr/bookList/view?idx=6472> [韓国歴史文化調査資料データベース]

■二聖山城

金洙喆^{キム スチョル}・李光熙^{イ グワンヒ} 2007 「이성산성 출토 목제칠기 보존」『박물관보존과학』8: 41-47. [「二聖山城出土木製漆器の保存」『博物館保存科学』8]

金洙喆^{キム スチョル}・손준혁^{ソンジュンヒョク} 2011 「하남 이성산성 출토 목제품의 보존 처리」『박물관보존과학』12: 47-52. [「河南二聖山城出土木製品の保存処理」『博物館保存科学』12]

■茶戸里遺跡

金洙喆^{キム スチョル}・박민수^{パク ミンス}・윤은영^{ユンウンヨン} 2012 「다호리 출토 판상 칠기의 재질 분석」『박물관보존과학』13: 33-36. [「茶戸里出土板状漆器の材質分析」『博物館保存科学』13]

館保存科学』13]

■水村里遺跡

李容喜^{イ ヨンヒ}・연정아^{ヨンジョンア}・박정혜^{パクジョンヘ}・金洙喆^{キム スチョル} 2013 「공주 수촌리 출토 칠기 칼집의 보존」『박물관보존과학』14: 1-5. [「公州水村里出土漆劍鞘の保存」『博物館保存科学』14]

■武寧王陵

李容喜^{イ ヨンヒ}・金庚洙^{キム キョンス} 2001 「무령왕릉 옷칠 기법 조사」『백제 사마왕: 무령왕릉 발굴, 그 후 30 년의 발자취』국립공주박물관: 215-216. [「武寧王陵の漆技法の調査」『百濟斯麻王: 武寧王陵發掘、その後 30 年の足跡』国立中央博物館]

金庚洙^{キム キョンス} 2001 「무령왕릉 왕 두침 수종조사」『백제 사마왕: 무령왕릉 발굴, 그 후 30 년의 발자취』국립공주박물관: 217-218. [「武寧王陵の王頭枕の樹種調査」『百濟斯麻王: 武寧王陵發掘、その後 30 年の足跡』国立中央博物館]

* 上記論文では木棺と王の頭枕について顕微鏡観察をしている。両資料とも後により詳細な報告が出ているので、そちらを訳出している。

金洙喆^{キム スチョル}・李光熙^{イ グワンヒ}・이광희^{シンソンピル} 2007 「무령왕릉 목관재 및 칠기의 수종과 칠 기법 연구」『武寧王陵: 출토유물분석보고서』Ⅲ (国立公州博物館研究叢書 19), 국립공주박물관: 202-231. [「武寧王陵木棺材ならびに漆器の樹種と漆技法の研究」『武寧王陵: 出土遺物分析報告書』Ⅲ, 国立公州博物館]

* 本号に収録した「科学的分析方法を利用した武寧王陵木棺材の漆技法研究」(2010 年) は上記論文が書き直されたものとみられ、後者を訳出した。

■陵山里寺址

金洙喆^{キム スチョル}・조석민^{チョソクミン} 2010 「부여 능산리사지 출토 칠기의 현미경관찰」『백제중흥을 꿈꾸다 - 능산리사지 -』국립부여박물관: 236-249. [「扶余陵山里寺址出土漆器の顕微鏡観察」『百濟中興を夢見る—陵山里寺址—』国立扶余博物館]

■弥勒寺址

李容喜^{イ ヨンヒ}・김창석^{キムチャンソク}・정광용^{チョンクワンヨン}・한성희^{ハンソンヒ} 1993 「水浸漆器의 保存」『保存科学研究』14, 国立文化財機構. [「水浸漆器の保存」]

https://portal.nrich.go.kr/kor/originalUsrView.do?menuIdx=681&info_idx=82&report_cd=2828#link [国立文化財研究所]

■高麗時代

박정혜・李容喜^{イ・ヨンヒ} 이용희 2013 「고려시대 칠기에 나타난 묘금기법 연구」『박물관보존과학』14: 61-67. [「高麗時漆器に表れた描金技法の研究」『博物館保存科学』14]

李容喜^{イ・ヨンヒ} 윤은영^{ユンウンヨン} 정혜진^{チョンヘジン} 2013 「고려시대 목심 칠기의 제작기법 연구」『박물관보존과학』15: 78-95. [「高麗時代木心漆器の製作技法研究」『博物館保存科学』15]

■朝鮮時代

최석찬^{チェソクチャン} 김선덕^{キムソントク}・李容喜^{イ・ヨンヒ} 이용희^{コ・スリン} 고수린^{ハクスンウク}・학승욱 2011 「조선시대 칠도막 분석연구」『보존과학지: Journal of conservation science』27-4: 371-380. [「朝鮮時代の漆塗膜分析研究」『保存科学誌』27-4]

<https://www.e-jcs.org/journal/view.php?number=413> [雑誌『保存科学誌』]

『博物館保存科学』(韓国国立中央博物館 HP):

https://www.museum.go.kr/site/main/archive/periodical/category/category_134

謝辞:

本号の刊行に当たっては、各論文著者の方々から多大な協力を得ました。そして著者の方々以外にも、

論文の教示や報告書の借用など多くの面で以下の方々からご協力をいただきました。記して感謝いたします。[五十音順]

東潮(徳島大学名誉教授)、諫早直人(京都府立大学)、市元壘(東京国立博物館)、(社)韓国文化財保存科学会、庄田慎矢(奈良文化財研究所)、(財)住友財団、吉井秀夫(京都大学)

参考文献:

岡田文男 1995 「楽浪王野墓出土の漆器」『古代出土漆器の研究: 顕微鏡で探る材質と技法』京都書院: 123-144.

岡田文男・太田亜希・憑健・邵振宇・金蘭・陳斌 2009 「西安地区漢墓出土劍(刀)鞘的分析研究」『西安東漢墓』西安市文物保護考古所: 1077-1110.

Okada Fumio, 2019, A scientific investigation of lacquer ware incised KaoGong: Excavated from barrow No.7, Tsaram Xiongnu cemetery, *Asian Archaeology*, vol.3 (1-2), Springer: 71-74.

Otani Ikue, 2019, A reconsideration of a Chinese inscription carved on lacquerware unearthed from barrow No.7 of the Tsaram Xiongnu cemetery (Buryatia, Russia): New reflections on the organization of the central workshops of Han, *Asian Archaeology*, vol.3(1-2), Springer: 59-70.

付4:

『韓国木器資料集』Ⅱ 漆器一覧表

伽耶文化財研究所から『韓国木器資料集』Ⅰ～Ⅲが刊行されている。本書は韓国で出土した木製品の集成として編まれており、構成は農具、容器、武器など用途・種類別である。Ⅱ巻の漆器一覧表は容器としての漆器に限られるが(例えば漆塗りのある短剣鞘などはⅢ: 武器篇での掲載)、参考のため訳出しておく。図版については掲載していないので、原本で確認していただきたい。公開先は下記の通りである。

原載:

국립가야문화재연구소 2013『한국 목기자료집』Ⅱ: 용기 및 생활구편(국립가야문화재연구소 학술연구총서 제60집), 312-328. [国立伽耶文化財研究所『韓国木器資料集』Ⅱ: 容器ならびに生活具篇]

公開先(韓国文化財庁 HP):

http://www.cha.go.kr/cop/bbs/selectBoardList.do?bbsId=BBSMSTR_1021&searchUseYn=Y&mn=NS_03_08_01&pageUnit=10&viewType=&schDirect=&searchCnd=title&searchWrd=%ED%95%9C%EA%B5%AD+%EB%AA%A9%EA%B8%B0%EC%9E%90%EB%A3%8C%EC%A7%91+%&ctgryLrcls=&ntcStartDt=&ntcEndDt=&searchYear=

